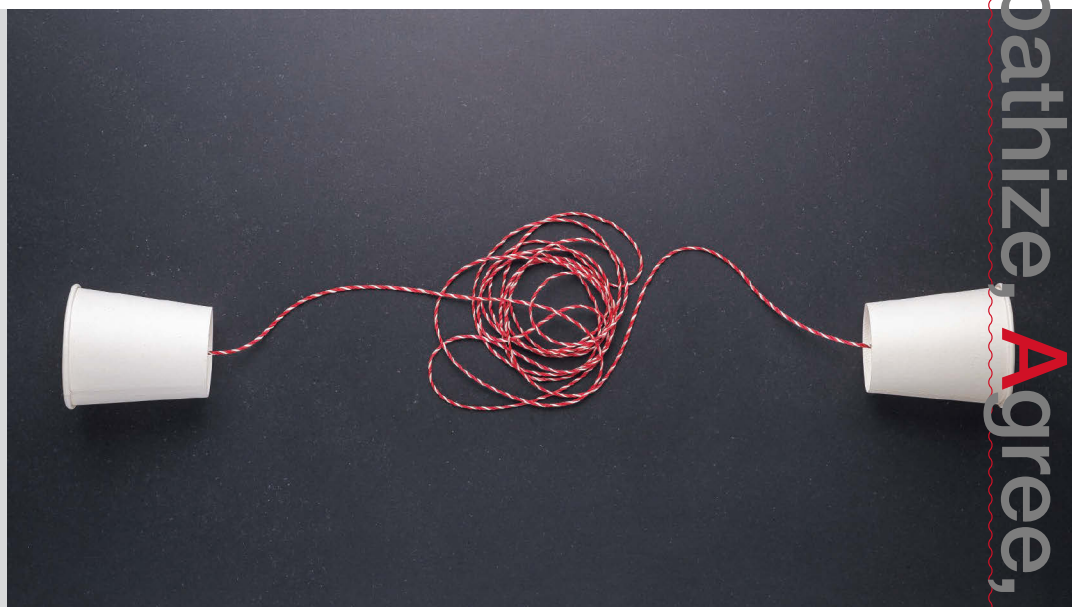


[特集]

患者さんと医療者の 意向が異なる時の コミュニケーション技法 リープ LEAP



一見荒唐無稽な「妄想」であっても、患者さんにしてみればそれは「現実」であり、自分では病気ではないと思っています。

そのため精神科の患者さんは、時として医療者側の治療提示を拒否します。医療者が無理矢理医療を導入しようとする、患者さんとの間に溝が生まれ、誤解や無用な軋轢が生じて、時に物理的な衝突、暴力に発展してしまうことがあります。特に入院時や行動制限の際にこうした衝突は発生します。

LEAPは、精神科医療において患者さんと医療者の意向が違っている時に、両者の溝を埋めるためのコミュニケーション技術です。傾聴、共感をベースに信頼関係を構築しながら、一致できる点を見出し、そのうえで双方にとってより良い目標を設定し、協働を目指していきます。

すでに院内でLEAPの研修も行っているという
山梨県立北病院のスタッフの方々に教えていただきます。

Listen, Empathize, Agree, Partner = LEAP